

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材株式会社

コード番号 4216

URL <https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 中野 賀津也

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部長 (氏名) 浜崎 芳忠 (TEL) 03-5826-8820

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	56,379	19.4	8,473	76.2	8,744	72.9	5,789	71.6
2022年3月期第3四半期	47,237	24.1	4,809	158.6	5,059	163.3	3,373	135.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 8,143百万円(110.0%) 2022年3月期第3四半期 3,877百万円(115.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年3月期第3四半期	円 銭 302.20	円 銭 ー
2022年3月期第3四半期	176.13	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	85,126	58,768	68.4	3,038.24
2022年3月期	74,925	51,867	68.6	2,681.92

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 58,208百万円 2022年3月期 51,363百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	ー	25.00	ー	35.00	60.00
2023年3月期	ー	30.00	ー		
2023年3月期(予想)				30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	76,000	17.4	10,300	56.7	10,600	51.2	7,200	50.9	375.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社(社名) —、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料P. 7 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	19,800,400株	2022年3月期	19,800,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	641,959株	2022年3月期	648,752株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	19,156,470株	2022年3月期3Q	19,151,958株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内の設備投資は、前期に引き続き半導体関連産業を中心に堅調に推移しました。一方海外においては、半導体製造装置市場において一部需要にかげりが見られましたが、半導体関連の工場建設需要は引き続き伸長しました。半導体デバイスにおいても、需要は比較的堅調に推移しているものの一部メモリ分野において減速が見られました。

国内自動車生産は、継続して半導体不足の影響を受けましたが前年を上回る生産台数となりました。また、国内の建設機械の生産台数は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は56,379百万円(前年同期比+19.4%)となり、営業利益は8,473百万円(前年同期比+76.2%)、経常利益は8,744百万円(前年同期比+72.9%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、5,789百万円(前年同期比+71.6%)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① 管材システム事業

管材システム事業は、主力製品の樹脂バルブを軸に樹脂管材市場を拡大することを基本戦略としています。また、耐食問題の解決と樹脂管材の機能性を追求した製品開発によりお客様のお役に立ちに注力した営業活動を推進しています。

国内の設備投資において景況感に変化はなく、樹脂バルブ等の基幹製品については半導体関連の大型工事案件に支えられて販売が堅調に推移しました。樹脂配管材料等を用いたエンジニアリング事業についても堅調に推移しました。その結果、国内の売上は前年を上回りました。

海外では、米国、中国において半導体をはじめとした電子関連産業の設備投資に伴う好調な需要が継続しました。また円安の影響もあり売上は前年を上回りました。

半導体製造装置向けのダイマトリックス製品は、韓国において需要の停滞が見え始めたものの、国内・海外ともに販売は伸長したことから、売上は前年を大きく上回りました。

利益面においては、人件費の増加や原材料価格高騰の影響があったものの、国内外で売上高が増加したことに加え、円安の影響もあり前年を大きく上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は35,722百万円(前年同期比+30.4%)、営業利益は7,846百万円(前年同期比+122.1%)となりました。

② 樹脂事業

自動車や建設機械等に必要の鋳物製造に用いる素形材製品は、お客様の作業環境の改善や、多様な鋳造工程に最適な製品を提案することでお客様へのお役に立ちに取り組んでいます。国内においては、お客様の製造品質の向上や作業時に発生する臭気低減につながる提案と新規のお客様への営業活動を行い、海外ではお客様の製造プロセスにおける歩留まり向上や品質を高める提案活動を継続して推進したことで売上は前年を上回りました。

発泡材料製品は、現場施工により最終製品となる製品であることから、施工のしやすさに加え、吹付施工後の品質の向上に取り組むことで、お客様へ安心・安全を提供しています。現場発泡断熱材においては、当社の得意とするビル・マンション等の建築着工案件に対して、その需要を取り込むため製品の設計折込みに注力したことや、トンネル掘削用の土木材料では、施工現場に適した製品の提案型営業活動に取り組んだことで、売上は前年を上回りました。

電子材料用途を主力製品とする高機能樹脂は、最先端の半導体に必要な電子材料の低メタル化精製技術を追求し、半導体の高度化に貢献しています。半導体の微細化に対応している国内大手レジストメーカー向けの低メタル製品に加え、レガシー半導体向けの製品の需要が引き続き堅調に推移しました。FPD用途向けに加え、メモリ半導体用途の需要の減速が見られたものの、売上は前年を上回りました。

利益面においては、高機能樹脂は前年を上回りましたが、素形材や発泡材料において原材料価格の上昇は落ち着いたものの、販売価格への反映が追いつかず、樹脂事業全体では前年を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は15,122百万円(前年同期比+10.1%)、営業利益は436百万円(前年同期比△40.0%)となりました。

③ 水処理・資源開発事業

水処理事業は、お客様のニーズに基づいた水処理設備や、水資源を有効に活用できる水再生システムの設計・施工を行っています。請負工事案件の一部において着工の遅れに加え、半導体等の部材不足の影響で施工中の工事案件の進捗遅れが継続しました。また、前年度は大型の設備工事を行っていたこともあり売上は前年を大きく下回りました。

資源開発事業は、再生可能エネルギーである地熱発電の蒸気井などの掘削工事や温泉開発工事を行い資源の有効活用に貢献しています。温泉設備工事において工事進捗の遅れがあったものの、地熱発電の掘削工事における大型案件が計画通りに進捗したことで、売上は前年を上回りました。

メンテナンス事業及び環境薬剤事業は、施設や設備の安定稼働のためのサービスや水処理薬剤を提供することでお客様へのお役に立ちに注力しています。メンテナンス事業は修繕工事案件が順調に進捗したこと、環境薬剤事業は、製品出荷量が増加したことにより売上は前年を上回りました。

利益面においては、売上高の減少に加え固定費が増加したことにより前年を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は5,535百万円(前年同期比△9.3%)、営業利益は142百万円(前年同期比△61.4%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は85,126百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,201百万円増加しました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産や電子記録債権、棚卸資産などの流動資産の増加によるものです。負債は26,358百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,300百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金や電子記録債務などの流動負債の増加によるものです。純資産は58,768百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,901百万円増加しました。これは主に利益剰余金や為替換算調整勘定の増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2022年10月31日に公表しました業績予想を修正いたしました。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,311	15,292
受取手形、売掛金及び契約資産	15,351	16,719
電子記録債権	4,202	6,719
棚卸資産	13,235	17,347
その他	787	1,163
貸倒引当金	△57	△61
流動資産合計	47,830	57,179
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,715	6,885
その他(純額)	11,287	12,439
有形固定資産合計	18,003	19,324
無形固定資産		
のれん	968	935
その他	1,276	1,215
無形固定資産合計	2,245	2,150
投資その他の資産		
投資有価証券	3,333	2,942
退職給付に係る資産	2,606	2,593
その他	932	958
貸倒引当金	△23	△20
投資その他の資産合計	6,848	6,473
固定資産合計	27,095	27,947
資産合計	74,925	85,126
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,155	7,186
電子記録債務	3,618	4,810
短期借入金	2,575	3,011
未払法人税等	1,722	1,914
その他	4,295	4,840
流動負債合計	18,365	21,761
固定負債		
長期借入金	195	244
退職給付に係る負債	1,841	1,882
株式給付引当金	54	56
役員株式給付引当金	94	142
長期前受金	617	566
その他	1,891	1,708
固定負債合計	4,693	4,597
負債合計	23,058	26,358
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,496	8,574
利益剰余金	36,861	41,396
自己株式	△1,100	△1,165
株主資本合計	49,257	53,805
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	950	693
為替換算調整勘定	1,151	3,731
退職給付に係る調整累計額	5	△21
その他の包括利益累計額合計	2,106	4,403
非支配株主持分	504	560
純資産合計	51,867	58,768
負債純資産合計	74,925	85,126

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	47,237	56,379
売上原価	31,363	34,901
売上総利益	15,874	21,478
販売費及び一般管理費	11,065	13,006
営業利益	4,809	8,473
営業外収益		
受取利息	6	12
受取配当金	112	131
為替差益	77	83
不動産賃貸料	67	67
出資金運用益	4	—
その他	31	47
営業外収益合計	297	340
営業外費用		
支払利息	14	18
不動産賃貸費用	11	11
出資金評価損	—	7
その他	22	32
営業外費用合計	47	69
経常利益	5,059	8,744
特別利益		
固定資産売却益	10	0
投資有価証券売却益	1	12
特別利益合計	11	13
特別損失		
固定資産除却損	38	23
固定資産売却損	—	2
投資有価証券売却損	0	—
損害補償損失	13	—
事業構造改善費用	103	—
特別損失合計	155	26
税金等調整前四半期純利益	4,914	8,731
法人税等	1,499	2,903
四半期純利益	3,415	5,828
非支配株主に帰属する四半期純利益	42	39
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,373	5,789

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,415	5,828
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△90	△257
為替換算調整勘定	687	2,598
退職給付に係る調整額	△134	△26
その他の包括利益合計	463	2,315
四半期包括利益	3,877	8,143
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,829	8,086
非支配株主に係る四半期包括利益	49	57

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27－2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	27,397	13,734	6,106	47,237	—	47,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	122	1	1	125	△125	—
計	27,519	13,736	6,107	47,361	△125	47,237
セグメント利益(営業利益)	3,533	728	367	4,628	181	4,809

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「樹脂事業」セグメントにおいて、フェノール成形材料及びジアリルフタレート成形材料の生産及び販売事業からの撤退を決定したため、当第3四半期連結累計期間において、当該事業用資産について、減損損失を103百万円計上しております。

なお、当該減損損失については、特別損失の「事業構造改善費用」として表示しております。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	35,722	15,122	5,535	56,379	—	56,379
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	109	3	28	140	△140	—
計	35,831	15,125	5,563	56,520	△140	56,379
セグメント利益(営業利益)	7,846	436	142	8,424	49	8,473

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。